

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『未活用の資源を利活用し、観光業×六次産業化で稼ぐ力をつける』

活動団体の活動地域：座間味村阿嘉島及び慶留間島

活動団体名：阿嘉島産業興しの会

中間支援主体名：阿嘉区

活動団体と地域の紹介



【簡単なお紹介】

私たちが住んでいる阿嘉島は沖縄本島より約30キロほど離れた慶良間諸島にあり、座間味島・阿嘉島・慶留間島の三つの島をまとめて座間味村と言います。阿嘉島には阿嘉区しかありません。人口約180人程度の小さな島です。主な産業はダイビング・民宿による観光業です。

現在、人口減少・高齢化・若者が島に帰ってこない、などの問題を目の当たりにしています。しかし、阿嘉島にはまだまだ可能性は沢山あります。

地域に眠る資源（濃縮海水、空き家、遊休農地、ケラマジカ等）を利活用することで様々な問題・課題の解決に繋がっていきたいと思っております。

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域資源を活用し、経済的自立を目指すとともに、行政に頼りすぎず自立した地域づくりをする。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

間違いや失敗は当たり前なので、楽しんでやる事を心がける。
人口180人程度なので、課題の共有、「話し合い」を大切にして取り組んでいく。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・ 製塩事業の事業計画づくりを行う
- ・ 空き家の賃貸、売買への取り組み
- ・ 遊休農地の活用に向けた島らっきよの商品化

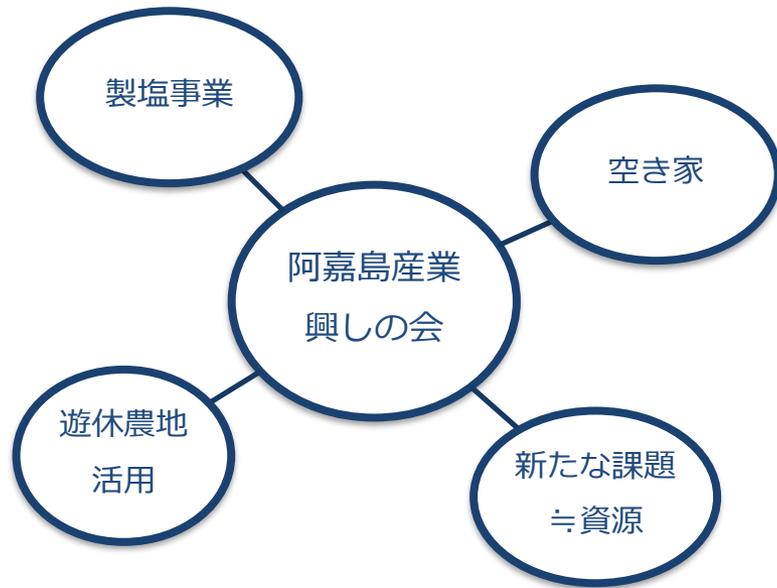
地域の現状

- ・ 海水淡水化事業で出る濃縮海水が現在は活用されていない。
→ 濃縮海水を活用した製塩事業。事業計画作成を行う。
- ・ 年に1,2回しか帰省しない家（空き家）が約30軒ある。
→ 賃貸もしくは売買が可能か家主との協議を深める。
- ・ 現在活用されていない農地（遊休農地）がある。
→ 遊休農地の再活用で六次産業化×観光業で稼ぐ力をつける。

地域に眠る資源の中で、主に上記の資源の利活用について今回は力を入れていく。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



昨年の活動団体「阿嘉区」から今年度は「阿嘉島産業興しの会」へと組織づくりをしました。
各事業のまとめ役として中間支援主体の「阿嘉区」と連携を図りながら事業を進めていきます。

足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

各事業資金をどこから集めるか？が課題

3か年状態目標

2026年度末の状態目標

- ・ 製塩事業→製品質の向上、販路拡大、売り上げアップ
- ・ 空き家→交渉継続、1軒でも賃貸活用に繋げる
- ・ 遊休農地活用→作付面積の拡大、販路拡大

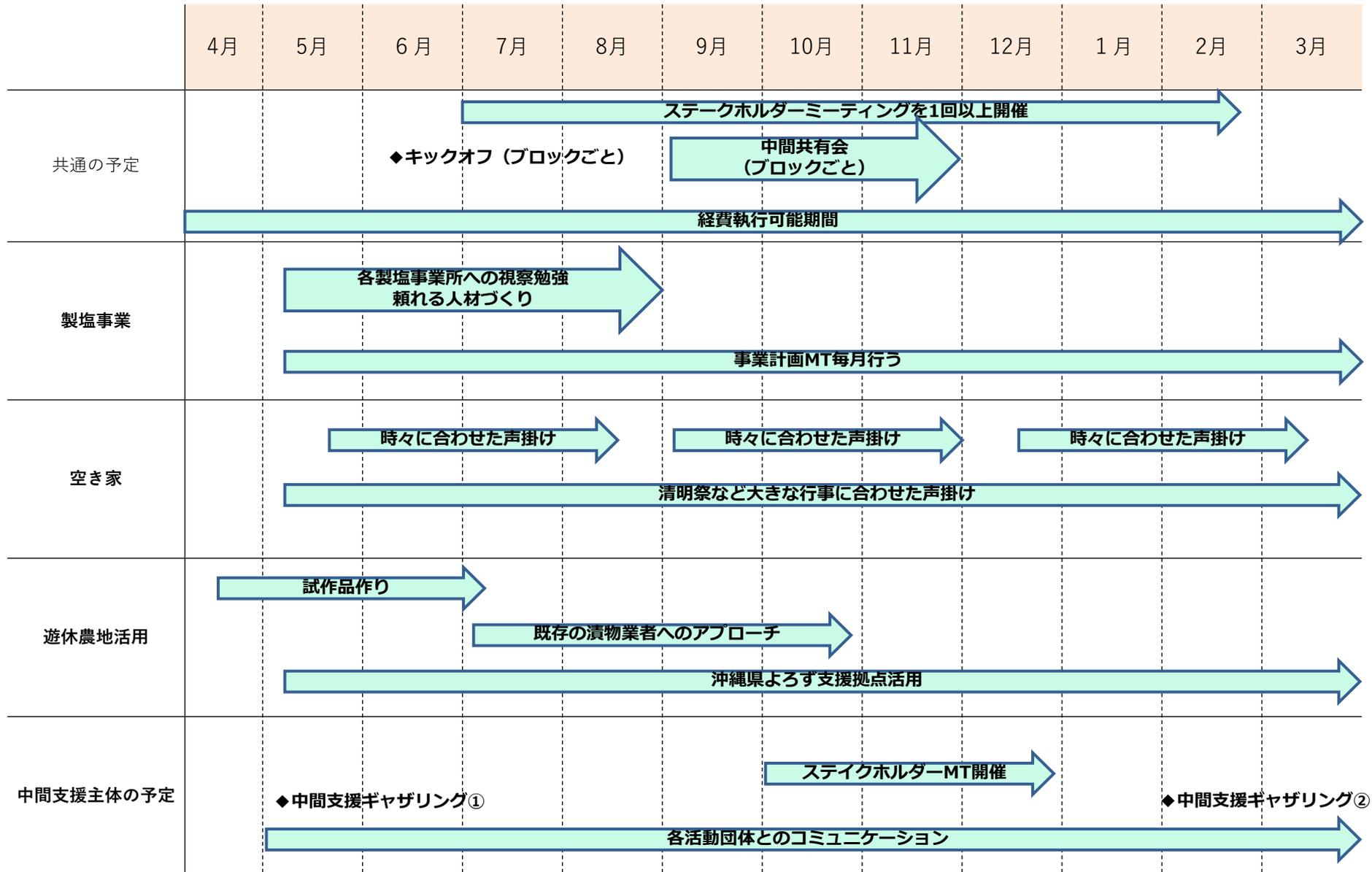
2025年度末の状態目標

- ・ 製塩事業→資金調達、施設建設、稼働開始
- ・ 空き家→1軒でも賃貸活用に繋げる
- ・ 遊休農地活用→作付面積の拡大、ブランディング、製品質の向上

2024年度末の状態目標

- ・ 製塩事業→計画的に沖縄県内製塩事業者を訪ね、
阿嘉島に合った塩づくりへの落とし込みを行っている
- ・ 空き家 →あまりしつこく家主に連絡を入れても関係性を崩しかねないので、
大きな行事（清明祭や十五夜等）を使い、うまく協議に繋げる
- ・ 遊休農地活用→漬物製造許可証の取得、商品開発、関わる仲間を増やす

活動計画



中間支援主体より

中間支援主体の紹介

人口減少、少子化の波に直面している地域です。昨年、活動団体として取り組んだ事を軸に阿嘉区が中間支援主体として活動団体をサポートしていきます。

離島ならではの特徴を活かし、快適で充実した生活が送れるよう、区行政を円滑に運営し、地域住民の生活・文化・福祉の向上と地域社会の発展に寄与し良好な地域社会の維持および形成を図ることを目的に、日々おこる問題や課題の解決への窓口となることを目指します。

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

- ・ 事業のメリットを伝え、やる気を維持できるようサポートする。
- ・ 楽観的に取り組みながら遊び心をもって楽しんで取り組めるようにする。
- ・ 初めから100点満点を求めない。とりあえず楽しみながらやる😊